

涙を流すイエス

ヨハネの福音書 11 章 28-37 節

はじめに

ここ数週間、礼拝の説教では「マルタ」と「マリア」という姉妹についての出来事から学んでいます。マルタとマリアには、「ラザロ」という兄弟がいました。そのラザロが病気で死んでしまったのです。マルタとマリアは、深い悲しみの中にありました。イエス様は、この三人を特別に愛しておられました（ヨハネ 11：5）。

イエス様がマルタとマリアがいる「ベタニア」の村に着いたのは、ラザロが死んで四日も経っていた時でした。イエス様が来られた時、姉のマルタは村の外にイエス様を出迎えに行きました。そこでマルタは、「**主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに**」(ヨハネ 11:21)と語り、イエス様といくつかの信仰的な会話を交わしました。

一方、妹のマリアは、イエス様が来られた時、「家で座っていた」のです。悲しみのあまり立ち上がれなかったのかもしれません。今日の聖書箇所は、イエス様が妹のマリアに対して、どのように関わられたのかということについて書かれています。

1. マリアとイエス

姉のマルタは、イエス様との会話を終えると、家に帰ってマリアを呼びに行きます。そして、「**先生がお見えになり、あなたを呼んでおられます**」とマリアに伝えます。するとマリアは、急いで立ち上がって、イエス様がられる村の外に出て行くのです。

マリアはイエス様を見ると、「**足もとにひれ伏し**」ます。「ひれ伏す」という言葉は、「崩れ落ちる」「倒れる」という意味の言葉です。マリアは、イエス様を見た途端、泣き崩れたのかもしれません。また「ひれ伏す」という言葉は、「礼拝する」という意味もあるので、神であるイエス様を拝んだのかもしれません。マリアの口から思わず出た言葉は、姉のマルタと全く同じ言葉でした。「**主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに**」。イエス様なぜ、ラザロが病気の時に、ラザロが死ぬ前にここにいてくださらなかったのですか、という思いの込められた言葉です。しかしマリアは、自分の願ったように、イエス様が行動してくれなかったからといって、決してイエス様を責めたり、イエス様への信仰を失ったりはしませんでした。彼女はあくまでも、イエス様を「主」と呼び、イエス様の前に「ひれ伏し」、イエス様を礼拝することをやめなかったのです。

しかし、マリアの涙は止まりませんでした。マリアについて来たユダヤ人たちも、マリアと共に泣きました。彼らには、マリアに寄り添い、マリアと共に泣くこと以外に、マリアを慰める方法がなかったのです。

2. イエスの憤り、心の騒ぎ、涙

ではイエス様は、そんなマリアに対して、どのように関わられるのでしょうか。イエス様は、泣いているマリアに対して、何一つ言葉を語らないのです。ただイエス様は、33節にあるように、「**霊に憤りを覚えて**」、「**心を騒がされた**」のです。そして、35節にあるように、「**涙を流された**」のです。

「霊に憤りを覚える」という言葉は、「不機嫌になる」「腹を立てる」という意味の言葉です。つまりイエス様はここで、「怒った」のです。泣いているマリアとユダヤ人たちを見て、イエス様は「怒った」のです。イエス様はなぜこの時、怒ったのでしょうか。ある人はこう言います。イエス様はこの時、人間の死の現実に対して怒ったのだ、死は罪によって人類に入った、そしてその罪はサタンまたは悪魔の誘惑によって人類に入った、イエス様は人間に罪と死をもたらしたサタンまたは悪魔に対して、ここで激しく怒っておられるのだと。私もそうだと思います。イエス様は、サタンまたは悪魔に対して、そして死という悲惨な現実に対して「憤りを覚えた」のだと思います。

続いてイエス様は、「心を騒がせ」ました。「心が騒ぐ」という言葉は、「恐れる」「動揺する」という意味の言葉です。つまりイエス様はここで、「不安を抱かれた」のです。イエス様が「不安を抱く」というのは、意外に思われるかもしれませんが。しかしイエス様は、ある時だけ不安を抱かれるのです。それは、十字架を前にした時です。12：27でイエス様は、こう言われます。「**今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ、この時からわたしをお救いください』と言おうか。いや、このためにこそ、わたしはこの時に至ったのだ**」。イエス様でも、十字架で死ぬ前は心が騒いだのです。ではなぜ、イエス様は泣いているマリアとユダヤ人たちを見て、心が騒いだのでしょうか。それはおそらくこの時、十字架を覚悟されたからではないでしょうか。人間の死の問題を解決するためには、イエス様が十字架で死ななければならないからです。ヘブル 2：14-15 には、こうあります。「**子たちがみな血と肉を持っているので、イエスもまた同じように、それらのものをお持ちになりました。それは、死の力を持つ者、すなわち、悪魔をご自分の死によって滅ぼし、死の恐怖によって一生涯奴隷としてつながれていた人々を解放するためでした**」。神の子であるイエス様はなぜ人となられたのか。その目的は、私たち人間の死の問題を解決するためでした。私たち人間から、死の恐怖を取り除くためでした。イエス様は十字架の死によって、悪魔を滅ぼされました。そして、三日目に死から復活することで、死の力に打ち勝たれました。これまで人類は死に対して全く無力でした。しかし人となられたイエス様が、十字架と復活を通して、悪魔と死の力を滅ぼされたことによって、私たち人類から死の恐怖が取り除き、死に対する希望と光が与えられるようになったのです。イエス様は、死の前に泣いているマリアとユダヤ人たちを見て、ご自身が十字架で死なれる覚悟を決められたからこそ、「心が騒いだ」のだと思います。

最後に、イエス様はなぜ「涙を流された」のかを考えたいと思います。36節を見る

と、イエス様の涙を見たユダヤ人たちは、「**ご覧なさい。どんなにラザロを愛しておられたことか**」と言いました。イエス様は、ラザロを愛しておられたから泣いたのでしょうか。愛する人を失った悲しみで、またマルタとマリアを慰めるために、共に泣かれたのでしょうか。私はそうではないと思います。というのは、33 節にあるマリアが「泣いた」あるいは、ユダヤ人たちが「泣いた」という言葉と、35 節のイエス様が「涙を流された」という言葉は、ギリシヤ語の原文では違う言葉が使われているのです。マリアやユダヤ人たちが「泣いた」という時の言葉は「クラオー」という言葉です。イエス様が「涙を流された」という時の言葉は「ダクルオー」という言葉が使われています。つまり、マリアやユダヤ人たちの涙とイエス様の涙は、根本的に違うものだと思うのです。

では、イエス様はなぜ「涙を流された」のでしょうか。イエス様はここで、涙の理由について語っていませんので、あくまでも想像するしかありませんが、私はこう思うのです。イエス様はこの時、私たち人間の不信仰の姿を見て、涙を流されたのではないかと。今日の聖書箇所には漂っているのは、死に対する諦めです。マリアも、「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに」と言いました。ラザロが病気の時に共にいてくださったなら何とかなったのに、死んでしまったら、さすがのイエス様にもどうにもならないという言葉です。37 節でも、ユダヤ人たちはこう言います。「**見えない人の目を開けたこの方も、ラザロが死なないようにすることはできなかつたのか**」。ここにも、イエス様は病気を治せるが、死に対しては無力だという言葉です。イエス様の涙を見たユダヤ人たちも、「どんなにラザロを愛しておられたことか」と言って、さすがのイエス様も、死の前には泣くことしかできないという言葉です。今日の聖書箇所に出てくる全員が、イエス様は確かに素晴らしい方だけれども、死に対しては無力だ、死に対しては、私たちと同じように涙を流すことしかできないと思っているのです。皆がイエス様には、死に打ち勝つ力があることを信じていないのです。皆がイエス様に期待していないのです。そして皆が、死の力を前に諦めているのです。イエス様は、そういう人間の不信仰の姿に悲しみを覚えて、涙を流されたのではないかと私は思うのです。この後、イエス様はラザロを死からよみがえらせます。そして、ご自身も十字架の死からよみがえります。そうして、イエス様は死に対して決して無力ではないこと、死に打ち勝たれる方であることを示されるのです。

私たちは、死の問題だけでなく、色々なことを諦めていませんか。病気のこと、家族のこと、教会のこと、色々なことに対して。確かにイエス様は素晴らしい方だし、これまでも祝福してくださったけれども、今私が抱えている問題はさすがのイエス様にも、どうにもならないのではないかと諦めていませんか。イエス様は本当に、今皆さんが抱えている問題に対して、無力なのでしょうか。イエス様は、イエス様にも無理だと諦めている私たちの不信仰に対して、涙を流されるのではないのでしょうか。イエス様は、生まれつき盲目であった人の目を開く方です。またイエス様は、死者をもよみがえらせる方です。私たちは、その方を前に、本当に諦めてよいのでしょうか。イエス様は、皆さんを見てどう思わ

れているのでしょうか。

天におられる私たちの父なる神様。

私たち人間には、どうにもならない問題があります。死の問題もそうです。死は自然なもの、死は受け入れるしかないもの、と人類は諦めてきました。そしていつか必ず訪れるものとして、恐れる他ありませんでした。しかしイエス様は、その死に打ち勝たれるため、死の力を持つ悪魔を滅ぼすため、死に対する希望を与えるため、十字架で死なれ三日目に復活されました。イエス様あなたは、私たちの想像を超えるほど、大きな力を持つ方です。どうか私たちがあなたに期待することを止めずにいることができますように。諦めそうになる時は、いつでもあなたの涙を思い出すことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。